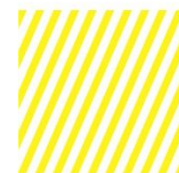


平成30年度当初予算 予算編成方針説明会



企画財政部 財政課

次なる
茨木へ。



茨木には、次がある。

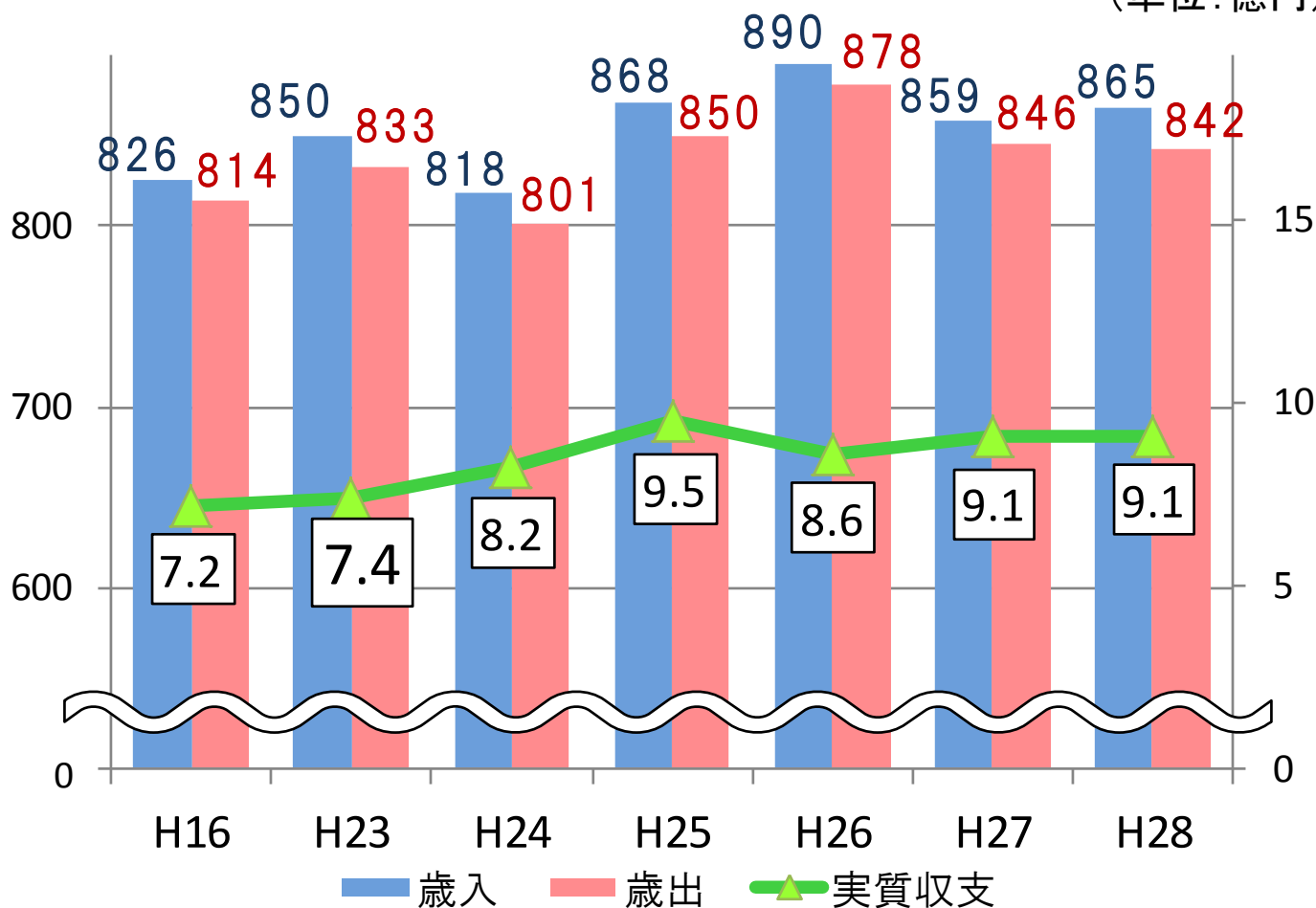
Chapter 1

茨木市の財政状況

税等一般財源の減少に加え、
義務的経費の増加が続き、厳しさが増す…

財政規模の推移（一般会計決算）

（単位：億円）



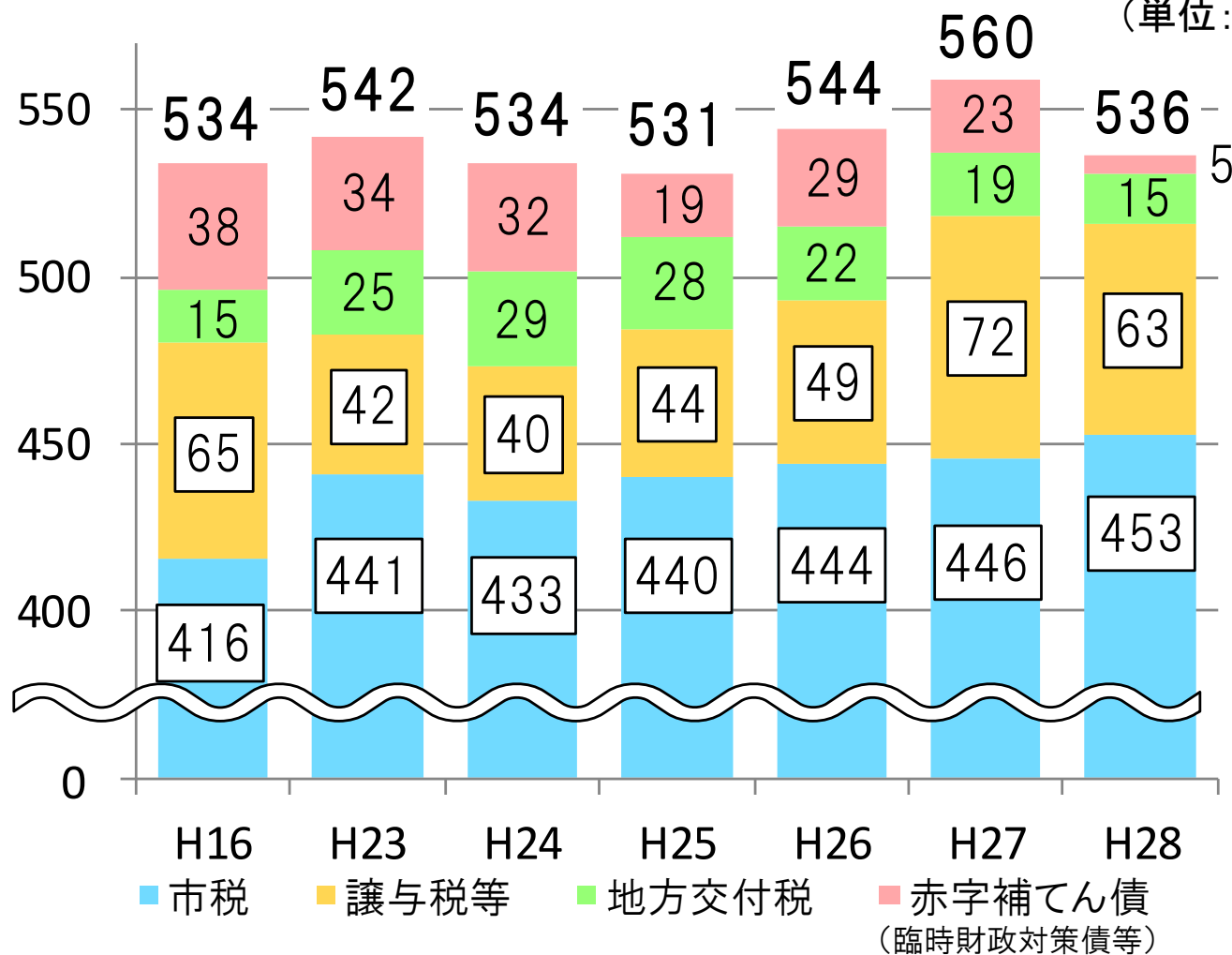
近年は臨時福祉給付金や国の補正予算等の活用により少しずつ増えているんだ



※H16・H26・H28は借換債（H16：59.3億円、H26：19.1億円、H28：5.4億円）を含む

税等一般財源の推移 (一般会計決算)

(単位: 億円)

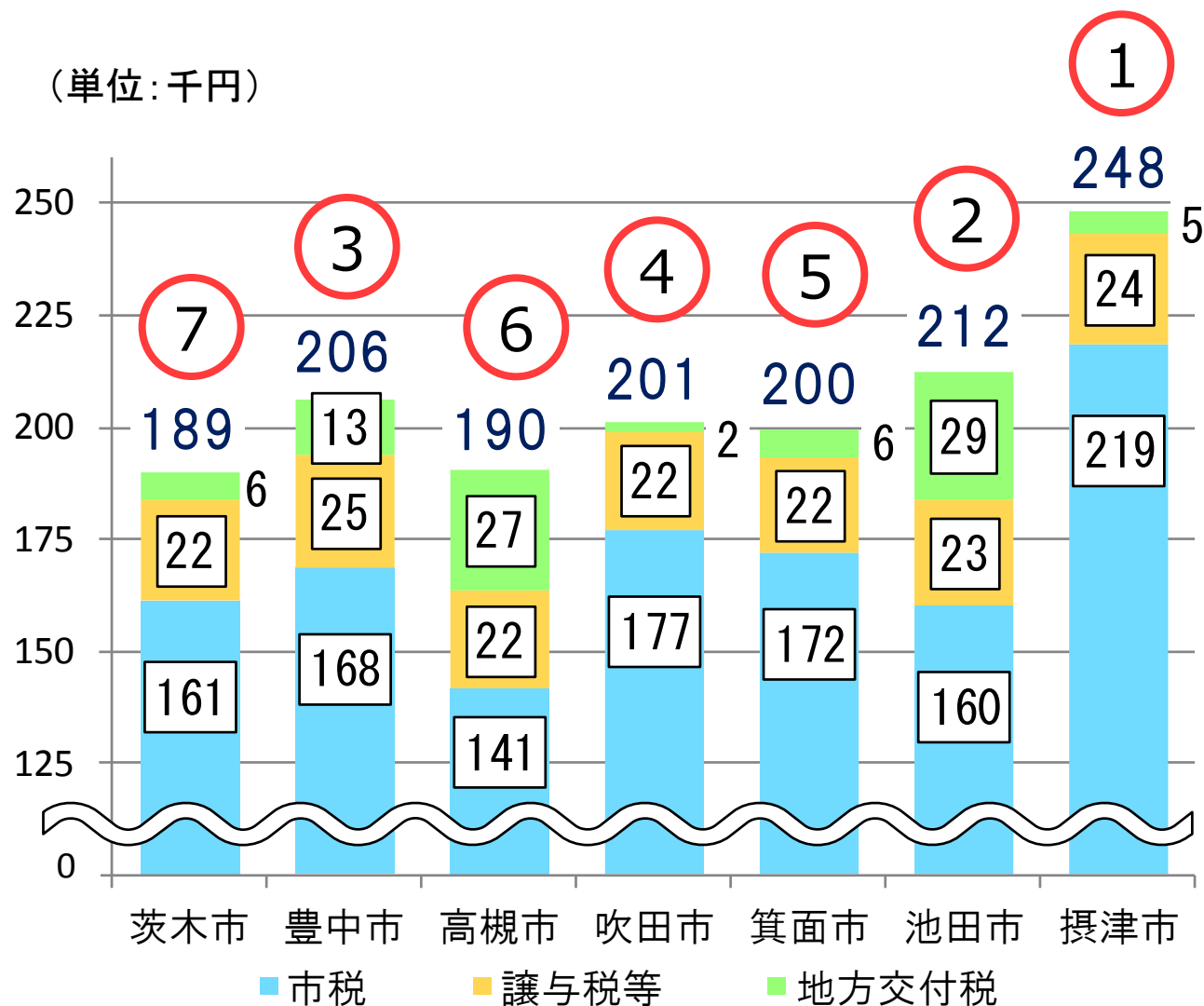


市税は増加傾向だけど、逆に地方交付税が少しずつ減っているね…



市民一人あたりの税等一般財源（北摂比較）

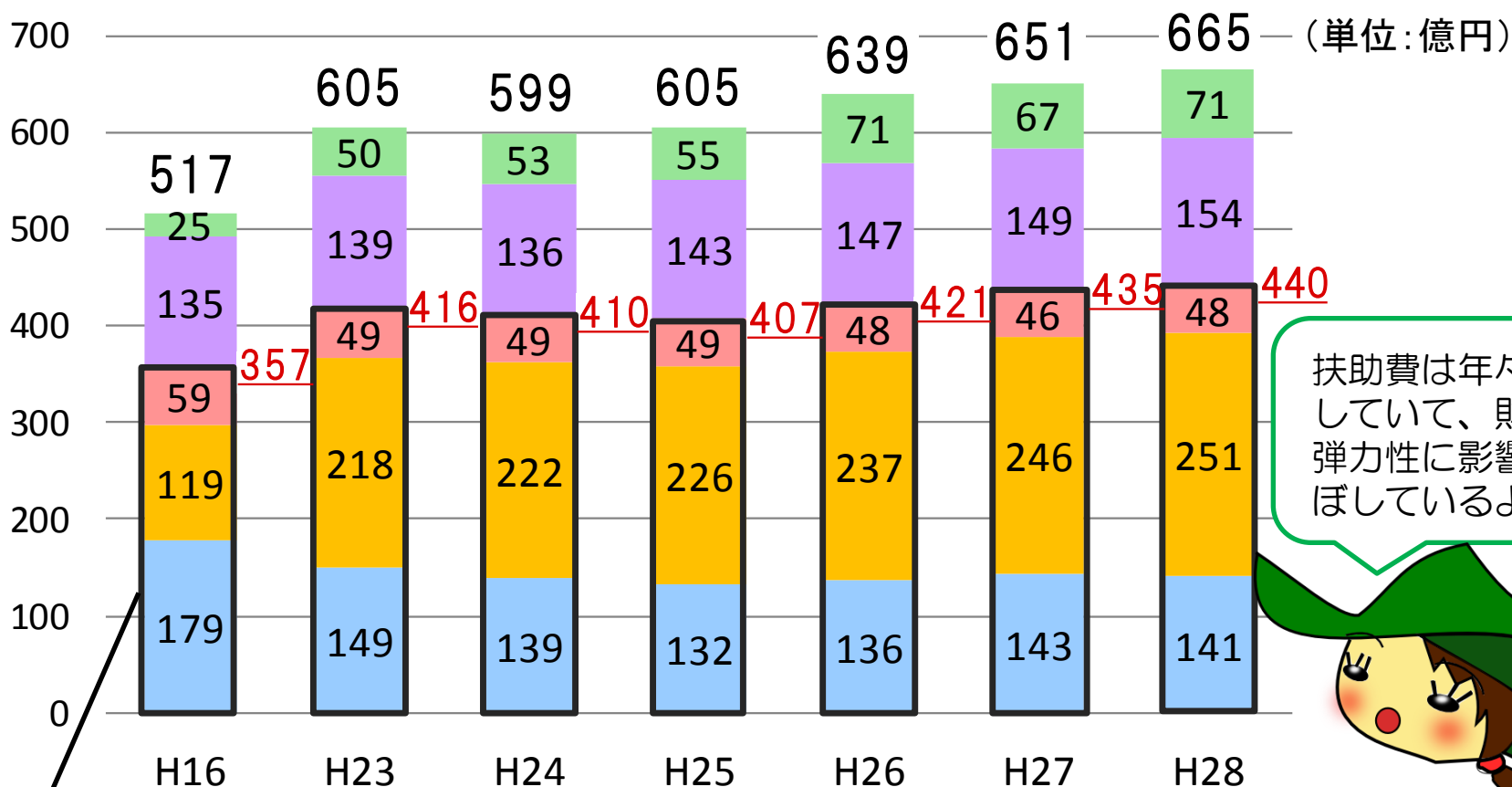
（単位：千円）



北摂の中でも決して多くはないねんなあ



主要な経費〈事業費〉の推移（一般会計決算）



扶助費は年々増加
 していて、財政の
 弾力性に影響を及
 ぼしているよね



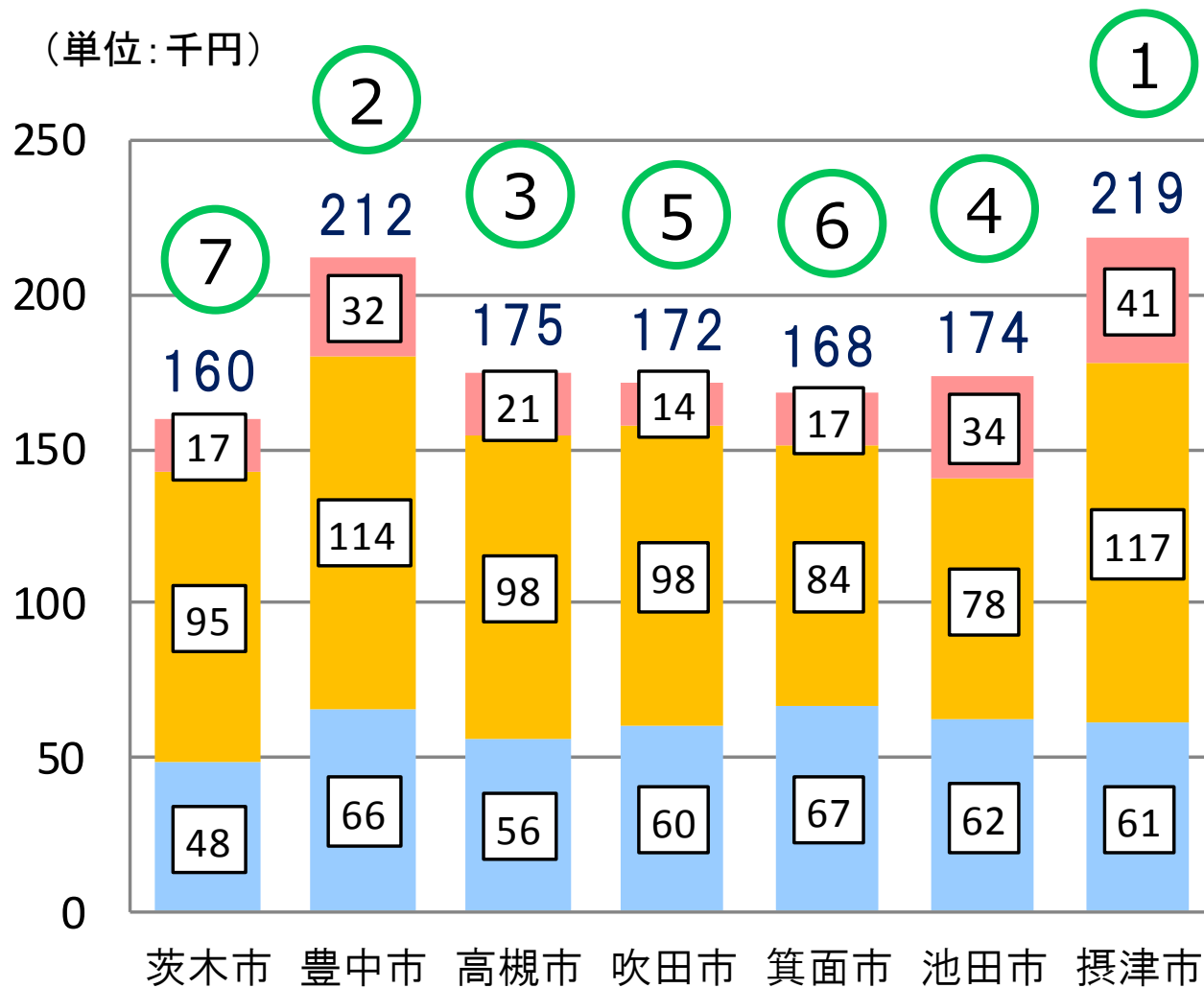
太枠は
 義務的経費

■ 人件費 ■ 扶助費 ■ 公債費 ■ 物件費 ■ 補助費等

※H16・H26・H28は借換債を除く。

市民1人あたりの義務的経費 (北摂比較)

(単位: 千円)

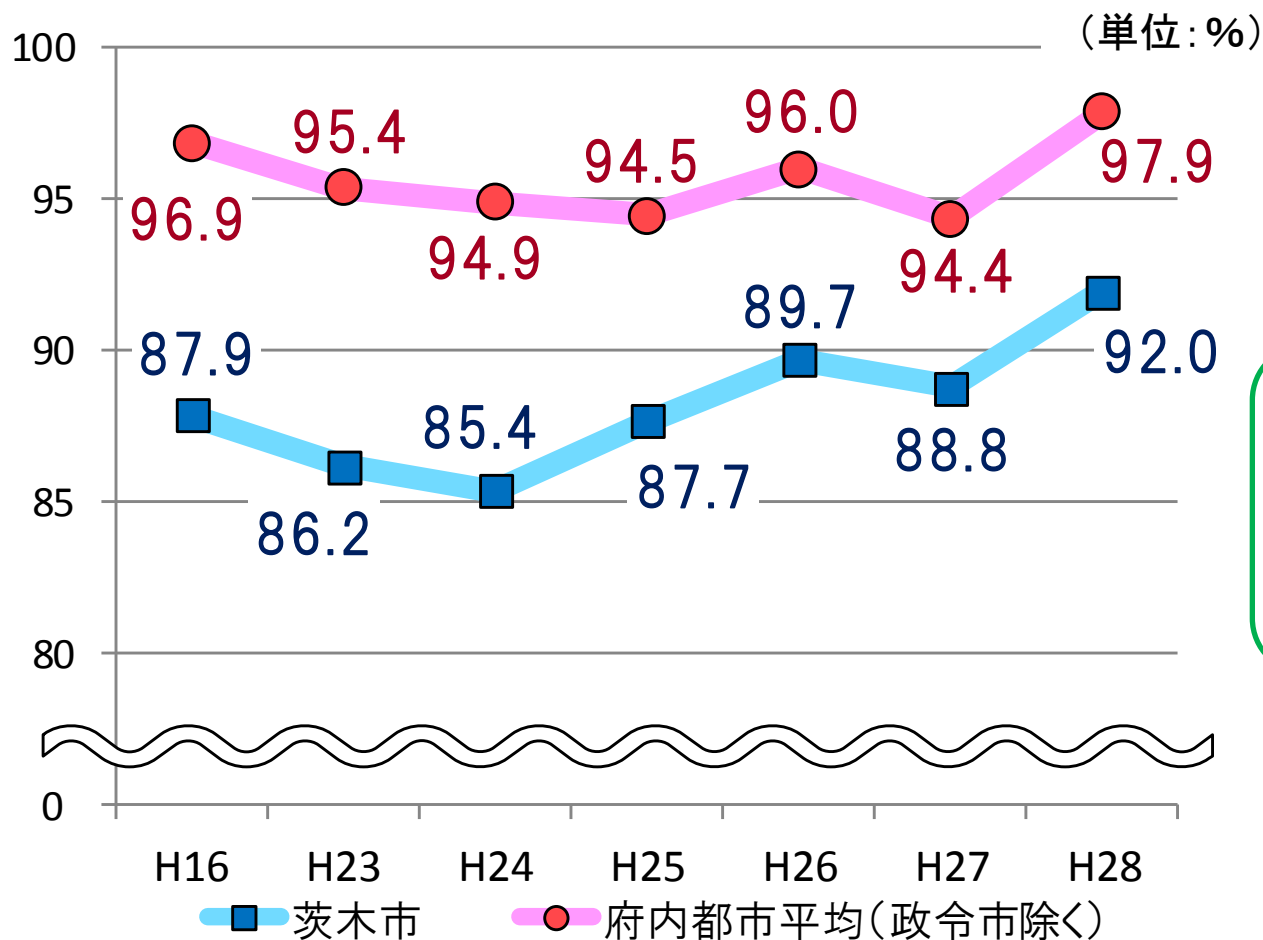


人件費の適正化や公債費の抑制により、北摂で一番少ないんだ



- 公債費
- 扶助費
- 人件費

経常収支比率の推移



※H28は市試算による暫定値

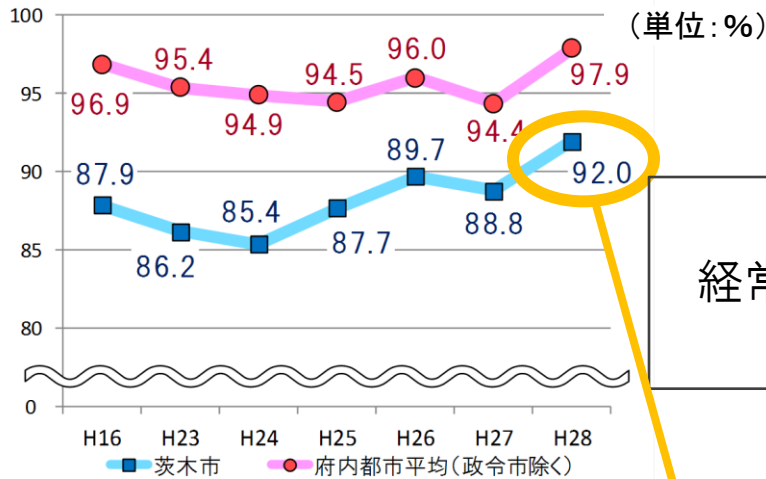
府内では比較的良い数値だけど…H28は上昇しているね。
何か要因があったのかな？



経常収支比率について



経常収支比率は、次の式で求められるんだよ



$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源} + \text{臨時財政対策債}}$$



H28決算の数値をあてはめると…

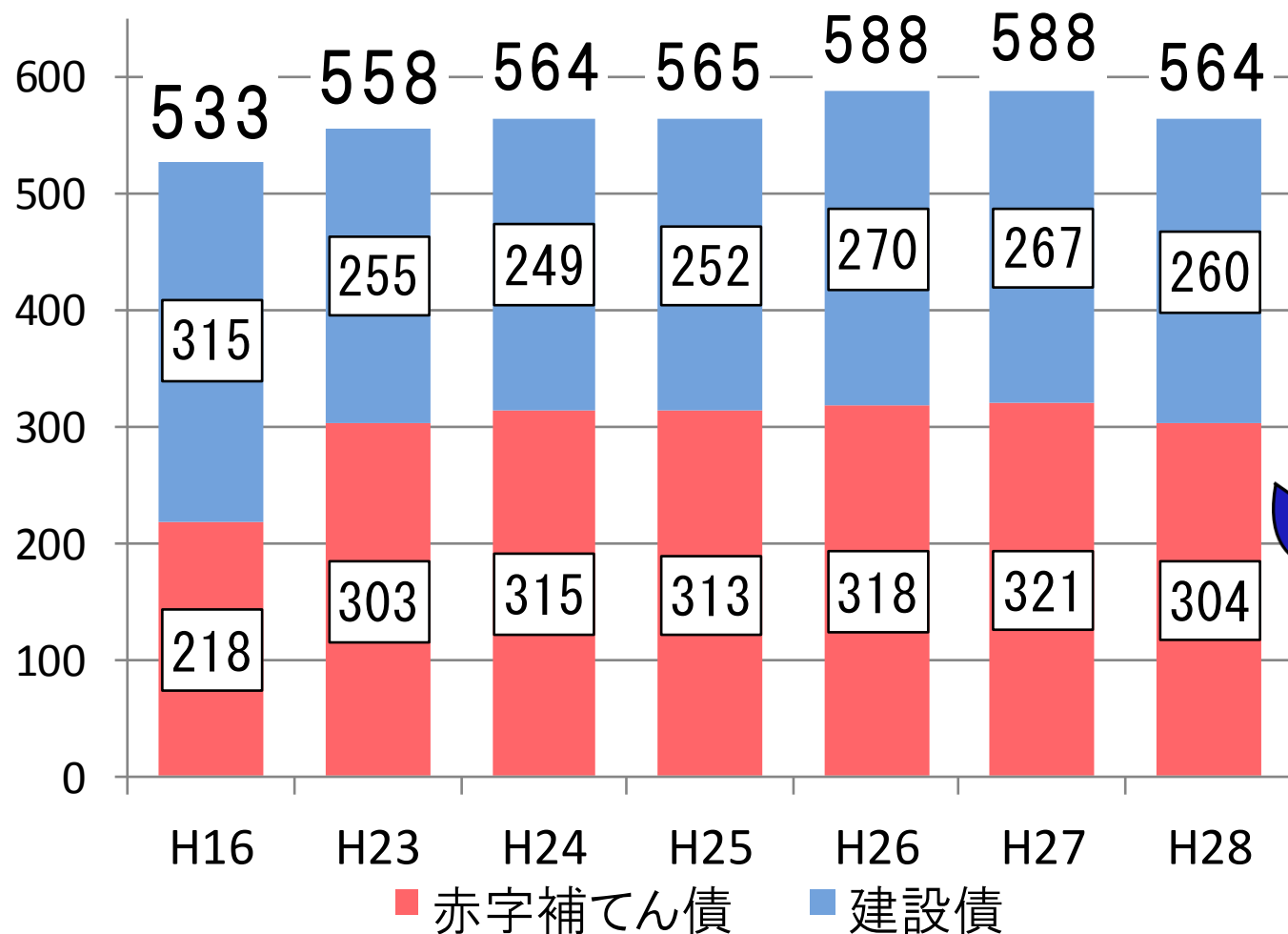
$$\text{経常収支比率} = \frac{463.2 \text{ 億円} \quad \begin{matrix} \text{↓ H27 決算比} \\ \text{(\triangle 5.5 億円)} \end{matrix}}{498.4 \text{ 億円} + 4.9 \text{ 億円} \quad \begin{matrix} \text{(\triangle 5.8 億円)} & \text{(\triangle 18.5 億円)} \end{matrix}}$$



H28は、分母の「臨時財政対策債」の発行を大幅に抑制したから、H27よりも比率が上昇したのね！

市債残高の推移

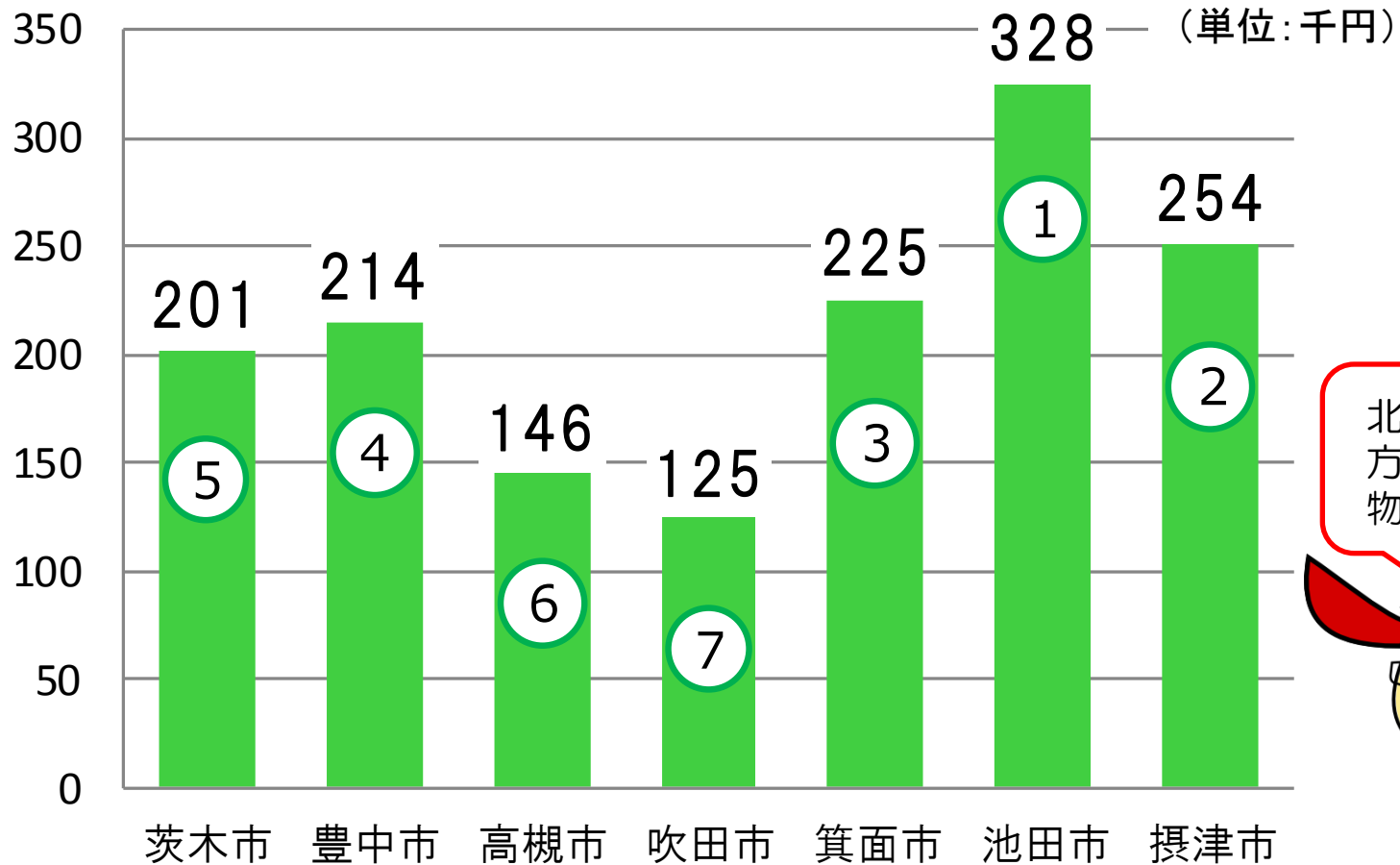
(単位:億円)



H28は建設債、赤字補てん債ともに発行を抑制したから、残高を減らせてんな



市民1人あたりの市債残高（北摂比較）



Chapter 2

財政計画

今後の財政見通しに基づき、
将来を見据えて健全性の確保に努める

(1) 今後の財政見通し

何も手立てを講じなければ、平成30年度から
収支の均衡が崩れだし、財源不足額が累積

財政収支の見通し

(単位:億円)

中長期財政見通し (年度)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
---------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

A 経常事業	①歳入	823	823	822	826	823	825	824	825	826	824
	(1) 市税	454	458	459	449	453	457	451	455	459	454
	(2) 譲与税・交付金	63	63	76	78	78	78	78	78	78	78
	(3) 地方交付税	15	14	11	15	11	12	14	11	10	13
	(4) 市債(臨時財政対策債)	21	20	8	12	12	5	5	5	5	5
	(5) その他	270	268	268	272	269	273	276	276	274	274
	②歳出	786	789	792	790	793	796	792	791	789	789
	(1) 人件費	147	148	148	147	148	150	150	151	150	150
	(2) 社会福祉経費 ※	355	355	359	359	361	364	366	368	371	373
	(3) 公債費	50	51	52	51	51	50	44	40	37	34
	(4) その他	234	235	233	233	233	232	232	232	231	232
	収支(①-②)	37	34	30	36	30	29	32	34	37	35
	※扶助費+繰出金(国保・後期・介護)+後期高齢者療養給付費負担金										
	③システム最適化経費	6	6	2	6	△ 1	△ 3	△ 1	△ 3	△ 2	△ 2
	A 収支(①-②-③)	31	28	28	30	31	32	33	37	39	37

システム経費
圧縮のため、
システム最適化
を実施！
※効果は
2022年度～

システム
最適化

A【経常事業】

少子高齢化の進展により、税等一般財源の伸びを社会福祉経費の伸びが上回る厳しい状況の中、税収の伸びや一定の地方交付税や臨財債の措置を見込むことにより収支はおよそ30~40億円(黒字)で推移する。

経常収支(A)は
政策事業等の財源
に充てられるのだ



中長期財政見通し (年度)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
---------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

B 政策事業	④ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	⑤ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑥基金積立	6	6	4	4	4	6	6	6	6	6
	⑦主要プロジェクト事業	24	15	38	31	22	1	0	0	0	0
	市債	12	8	19	16	10	0	0	0	0	0
	一般財源	4	2	3	3	1	1	0	0	0	0
	事業費 ④～⑦	58	49	70	63	54	35	34	34	34	34
	市債	25	21	32	29	23	13	13	13	13	13
	B 一般財源	20	18	17	17	15	17	16	16	16	16

■主要プロジェクト

・街路整備(山麓線) ・JR総持寺駅周辺 ・安威川ダム関連 ・ごみ処理施設長寿命化 など

■その他主要事業

・市民会館跡地活用 ・JR茨木、阪急茨木市駅周辺整備 など(※収支見通しには未計上)

C 公共施設等の老朽化対策費	⑧事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	C 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

B【政策事業】

茨木松ヶ本線整備やJR総持寺駅整備事業等の完了に伴い、逡減する経費もあるが、ごみ処理施設の長寿命化を新たに見込むことや安威川ダム関連事業等を引き続き見込むことから、多額の市債発行が必要となる状態が続く。

C【公共施設等の老朽化対策】

公共施設等の老朽化対策費として、長寿命化を基本に財政負担の平準化を図るため、一定の財源を活用し、予防保全的な改修等を実施する。

2017年度で実施したソフト事業のうち 3億円が経常化する見通し…

(単位:億円)

中長期財政見通し (年度)		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
D 政策事業により 経常化する経費	D ₁ ソフト事業の新規・拡充経費	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21
	D ₂ 公債費	0	0	0	3	5	6	9	11	13	14
D 政策事業の経常化分 合計		3	5	7	12	16	19	24	28	32	35

D【政策事業により経常化する経費】

政策事業の実施により経常化する経費や、主要プロジェクトの実施等により発行する市債の償還費が積み重なり、後年度に負担が重くのしかかる。

中長期財政見通しの総収支

(単位:億円)

中長期財政見通し (年度)		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
A	経常経費 収支 (経常経費の黒字)	31	28	28	30	31	32	33	37	39	37
B	政策事業 一般財源	20	18	17	17	15	17	16	16	16	16
C	公共施設等の老朽化対策 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
D	政策事業の経常化分 一般財源	3	5	7	12	16	19	24	28	32	35
E	E 総収支 《A-B-C-D》	▲3	▲6	▲7	▲10	▲11	▲15	▲18	▲18	▲20	▲25

何も手立てを講じないと平成30年度から収支不足になって、その額がどんどん増えていくのね！大変！





(2) 将来を見据えた取組み

将来にわたって健全性の確保に努める
ための財政運営の基本原則

財政運営の基本原則



財政計画に掲げている健全化の取組だよ

I 柔軟な財政構造の保持

經常化する経費の累積による財政構造の硬直化を防ぐため、新規・拡充事業（ビルド）の財源は、既存事業の見直し（スクラップ）により創出

具体的な取組

ビルド&スクラップの実践による
經常事業の見直し

II 将来への負担の抑制

過度な市債の発行は、後年度の公債費負担を増加させる要因になるため、将来に負担を先送りし過ぎないように、適切に市債を発行

具体的な取組

ハード事業の適切な選択による
市債発行の抑制

ビルド&スクラップの実践



経常経費の見直し

充実を図る一方で、あわせて見直しもしないと財源不足になってしまうもんな



■ビルド&スクラップの実践

・2018～：▲3億円
・2019～：毎年▲2億円

■ビルド

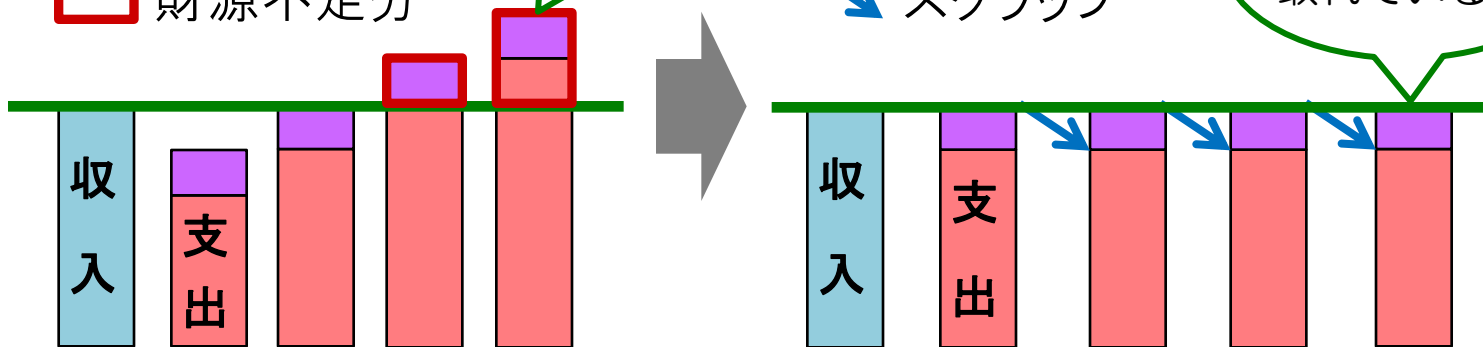
□財源不足分

財源が不足×

■ビルド

↓スクラップ

収支バランスが取れている◎

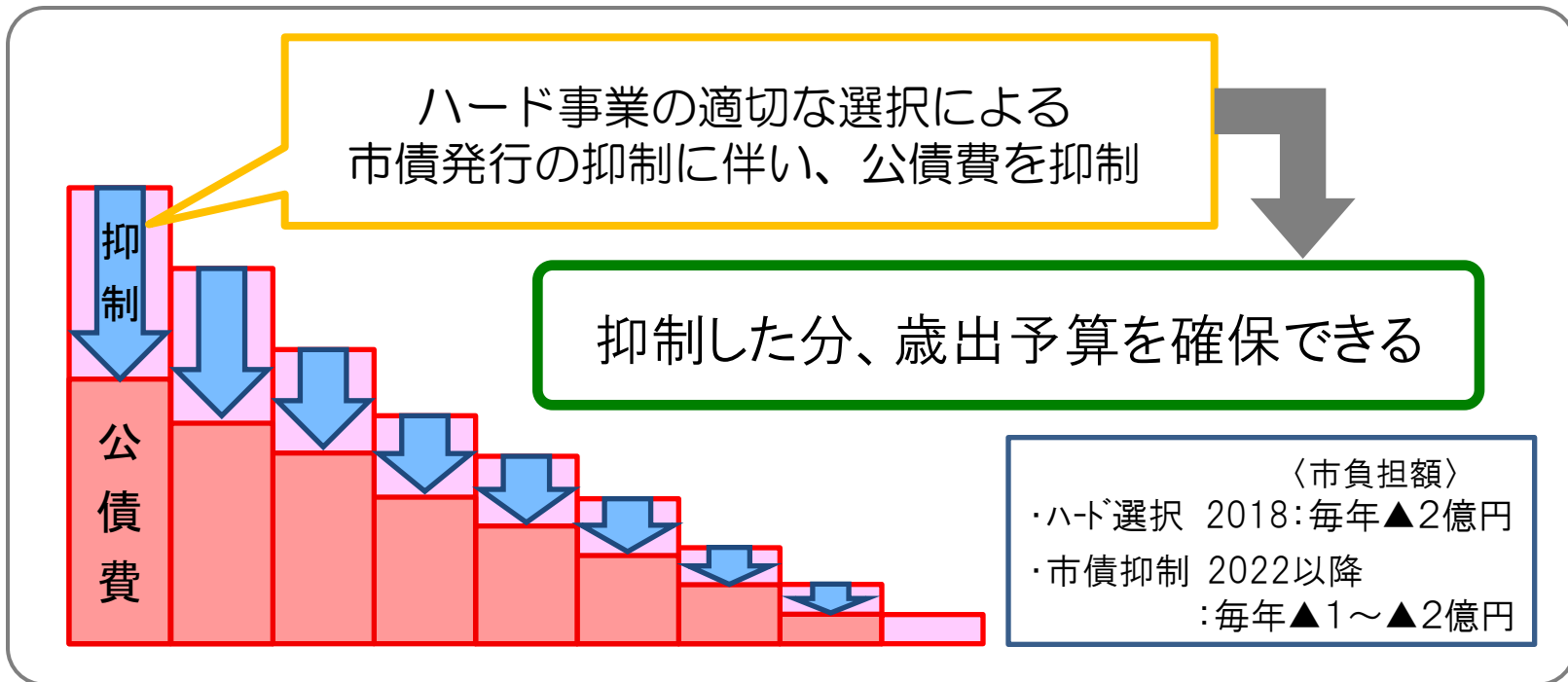


ハード事業の適切な選択



市債発行の抑制

借入れたお金の償還は、後年度の負担となるから、そのことを考慮しないといけないね



取組後の財政収支見通し

何も手立てを講じない場合の収支見込み

(単位:億円)

中長期財政見通し (年度)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
E 総収支《A-B-C-D》	▲ 3	▲ 6	▲ 7	▲ 10	▲ 12	▲ 15	▲ 18	▲ 18	▲ 20	▲ 25



取組みの実践

取組 I	ビルド&スクラップの実践 ⇒ビルドの財源はスクラップで創出	▲ 3	▲ 5	▲ 7	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 15	▲ 17	▲ 19	▲ 21
	(1)ハド事業の適切な選択 ⇒当年度の財政負担を軽減	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 2
取組 II	(2)市債発行の抑制 ⇒将来の公債費負担を軽減					▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 2	▲ 2



取組みの結果

最終収支《E-取組 I - 取組 II》	2	1	2	1	2	1	0	2	3	0
----------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2つの基本原則に取組むからこそ、黒字を確保できるんだ！



Chapter 3

予算編成の取組み

「今」と「将来」に対応した施策の実現
と「健全性」の確保

平成30年度予算は、

“次なる茨木”を実現していく予算へ

- 多様な価値観や生き方に対応した
『今』必要なサービスの充実
- 『将来』を見据えた
「住みたい」と思われるまちづくり
- まちの持続的発展を支える
『財政の健全性』の確保

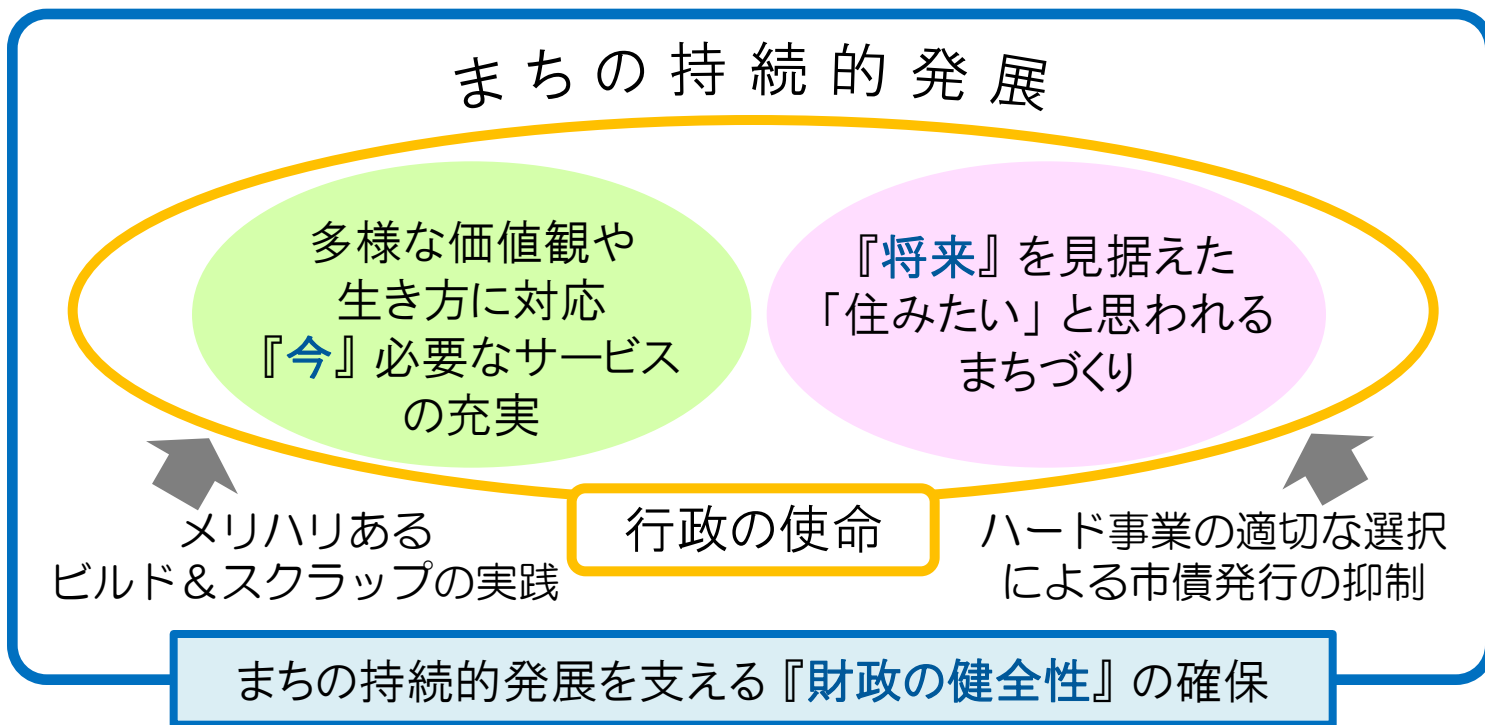
の実現が図れる予算編成を！

予算編成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全性」の確保
- (2) まちの持続的発展を果たすための取組の実施
- (3) 老朽化する公共施設等の長寿命化の推進
- (4) 市制施行70周年記念事業の実施

(1) 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全性」の確保

「財政の健全性」を確保のもと、これまでの課題解決への対応といった「マイナスをゼロに導く取組」にしっかりと対応した上で、一人ひとりの価値観に寄り添った多様なサービスの提供を図る「ゼロをプラスに導く取組」についても積極的に展開する。



(2) まちの持続的発展を果たすための取組の実施

① メリハリあるビルド&スクラップの実践による事業の見直し

《柔軟な財政構造の保持》

ビルド

～市民サービスの向上を図る事業の着実な実施～

- ・ **実施計画対象事業**は、事業費の精査、効果的・効率的な実施方法等を検討
- ・ 「ゼロをプラスへ導く取組」の実践に向けて設定する「**次なる茨木推進枠（2億円）**」を活用する事業について、各部各課でアイデアを出し積極的に立案

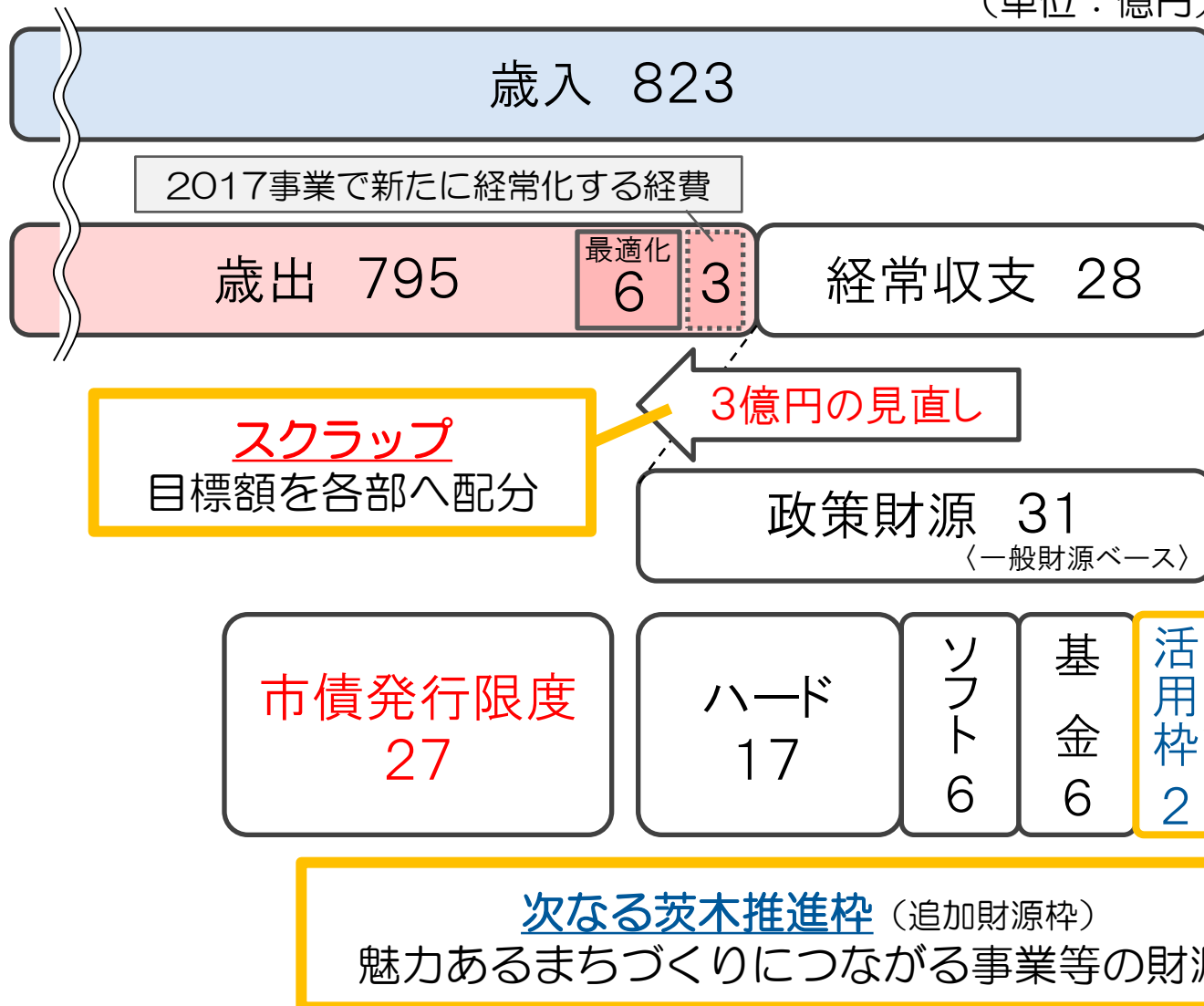
スクラップ

～事業の見直し等による健全な財政運営の推進～

- ・ 行財政改革指針に基づき「ビルドに要する経費はスクラップにより対応する」ことを基本姿勢とする
- ・ 各部課長はリーダーシップを発揮し、課の全事業について総点検し、見直し目標額達成に向け全庁的に取組む〈**目標額3億円**を各部に配分〉

当初予算編成に向けての財源フレーム

(単位：億円)



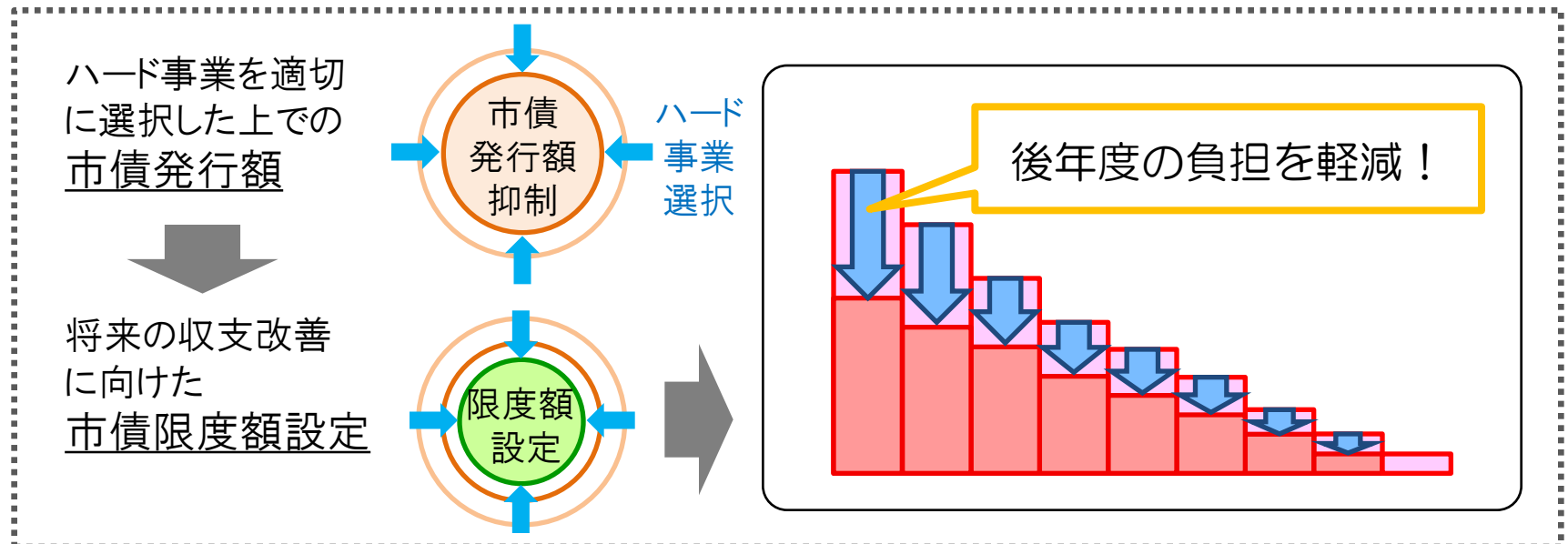
②ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制

《将来への負担の抑制》

ハード事業の適切な選択により市債発行を抑制し、将来の公債費負担を軽減

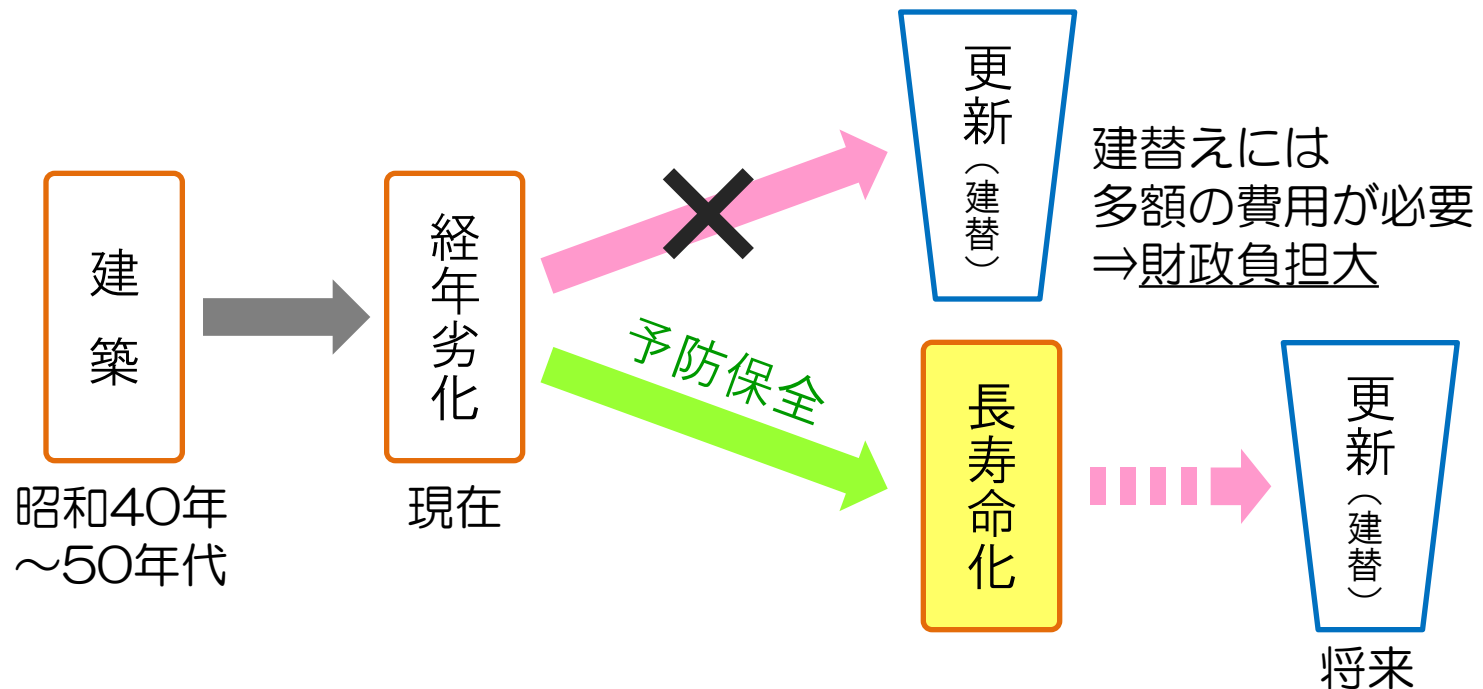
+

さらに、財政計画における将来の収支改善に向け、過度な市債の発行を避けるために市債発行限度額を設定



(3) 老朽化する公共施設等の長寿命化の推進

「公共施設等マネジメント基本方針」及び「茨木市公共建築物保全方針」に基づき、長寿命化に努め、一時期に集中する財政負担の平準化と低減を図るため、財政計画で確保する財源（H30：11億円）を活用し、予防保全的な改修等を実施。



(4) 市制施行70周年記念事業の実施

次なる
茨木へ。

市民のまちへの「誇りと愛着」を高め、総合計画の施策の実現につなげるため、プラットフォーム会議で示す記念事業について、より多くの人々が魅力を知り、興味を持つことで次なる茨木に向けた施策の展開が図られるよう魅力ある事業に磨き上げる。

(記念事業期間：平成30年1月1日～12月31日)



茨木には、次がある。



イバスタグラム
作品絶賛募集中！

平成30年度は、
“次なる茨木” を実現していく予算

- 多様な価値観や生き方に対応した『今』必要なサービスの充実
- 『将来』を見据えた「住みたい」と思われるまちづくり
- まちの持続的発展を支える『財政の健全性』の確保

の実現に努めよう！



70周年を契機に、
さらなる飛躍をめざして
力を合わせて頑張りましょうね！

いばらきの今と未来をまもるため



いばら騎士 社!